01

「自然を活かして住む」を学ぶ

伊藤　牧子
こどものためのオープンハウス事務局

■ポイントは、「体感」

「こどものためのオープンハウス」は建物空間（住まい）をテーマに、体感によって自然の恵みを実感できるような学習プログラムや教材の開発 , ワークショップを 1998 年から行ってきた市民活動グループです。太陽の光や熱、風などの自然を活かした住まいと暮らしによる「心地よさ」と「楽しさ」を伝え、自らの快適な住環境をつくりだすことのできる人が一人でも増えることを目標に、活動しています。

活動する時に、最も大切にしているポイントは「体感」です。私たちのメンバーには、仕事や研究で建築に携わる者が多数おります。そんなメンバー自身が、知っている、理解していると頭で思っていることでも、「体感」してみると、改めて気付くことの面白さや重要性を実感してきました。

「自然を活かして住む」ためには、温度や熱のふるまいについての理解が必要です。しかし、これらについて「知っている」だけでは、「自然を活かして住む」という行動につながりにくいものです。だれもが小中学校で学んだ温度や熱についても、改めて意識して「体感する」ことによる驚きや発見の中で、これまでの知識が智慧になり、「自然を活かして住む」という行動に結びつくと考えます。

私達の体感型ワークショップは、小さな子供から、全く知識のない人、すでに知識のある大学の先生や建築の仕事をしている人まで、幅広く共感を得てきました。

■代表的なワークショップ

ワークショップは、「感じる」「つなげて考える」「行動する」の３つのステップをくり返すことで、螺旋階段を登るように理解が進み、「自らの快適な住環境をつくりだすことのできる人」になるという思いから、組み立てられています。（03 参照）

「感じる」ワークショップの代表格は、「快適探検隊」です。1999 年 1 月に開催した記念すべき第一回ワークショップでは古民家で「快適探検隊」を行いました。

目隠しをしながら、夏は「暑いところ、涼しいところ」を、冬は「暖かいところ、寒いところ」を探します。目隠しをして立つと風や空気の温度の違いがはっきり感じられます。体感した後、計測してみると、体感は温度だけに影響されているわけではないことに気がつきます。それぞれが、最も快適と感じる場所を探し、その場所を “ 味わい ” ながら、なぜ快適なのかを考えます。「なぜか？」の解説をすることで、「つなげて考える」ステップに進めます。

涼しい（暖かい）場所には、涼しく（暖かく）暮すヒントがあります。また、暑い（寒い）場所の暑さ（寒さ）の理由を見つけられれば、それを取り除く方法が考えられます。そのためには、まず「感じる」ことを意識して行なおう、という思いから作られた単純ですが、気付きの多い、重要なワークショップです。

設立当初から、大人気のワークショップが「ダンボールで居心地のよい家をつくろう！」です。(写真 01/02) 自然を活かして夏は涼しい家を、冬は暖かい家を屋外に実際につくります。つくった家の中に入ることができるので、自分たちが狙い通りできたかどうかの確認や他のグループの工夫について体感することができます。これは、「感じ」て「つなげて考えた」ことを踏まえて「行動する」を練習する、という位置づけのワークショップです。ここで行なった涼しさ（暖かさ）作りを、家や学校でも実践してもらうようにしています。

02

[01/02] 大人気の「ダンボールで居心地のよい家を作ろう！」の様子。自然を活かした家を屋外で実際につくるワークショップ。[03] こどものためのオープンハウスにおけるワークショップの概念図 [04/05] 「家模型をつくる」ワークショップの一例。イベント後、それぞれのアイデアがあふれる家がたくさん並ぶ。

ダンボールで居心地のよい家をつくるワークショップの室内版として、「家模型をつくる」ワークショップがあります。これは、開催当日の天気を心配しないで準備することができます。横浜開国博の時には、ヒルサイドエリアで、「夏に涼しい家をつくろう！」と題して実施しました。他に、小学校の家庭科の授業や、企業のイベントなど様々な場所で行なわれてきました。イベントでは、家族で一軒の家をつくることが、喜ばれています。(写真 04/05)

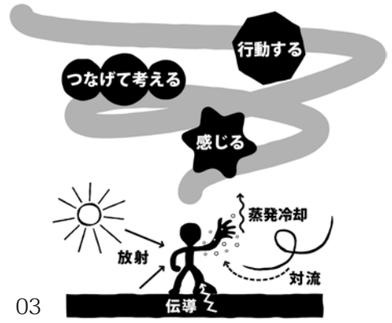
家模型は、構造材等をキット化しました。それにより、それまで多くの時間を費やしていた骨組み作りの時間を短縮し、家を涼しく（暖かく）するための工夫に時間が使えるようにしました。家の工夫をするための材料は、色々なものを用意します。それらを、参加者がバイキング形式で自由に選ぶことで、それぞれのアイデアあふれる家がたくさん並びます。

この様に、体感をキーワードにした様々なワークショップや実験を企画・開発し、進化させてきました。

■　今後に向けて

現代の都市に住む私たちとって、ほとんどの時間を過ごす , 一番身近な環境である建物空間（住まい）をテーマに行なう環境行動は、中にいる自分自身が快適になるだけでなく、日々の暮らしの中で実践できる環境保全活動だとも考えます。今後も、一人でも多くの方に、「自然を活かして住む」ことに興味を持ち、実践してもらえるように活動を続けていきたいと思います。

こうした活動が、環境性能のよい住宅を求める人が増える近道だ、と考えています。



03

04

05

伊藤牧子（いとう まきこ）

横浜在住。一級建築士
芦原建築設計研究所、(株) 早見プラザを経て、「伊藤牧子設計室」代表。
設計業務と平行して、1998 年設立時より「こどものためのオープンハウス」事務局。会は、平成22年度、環境大臣より「地域環境保全功労者」表彰を受ける。
こどものためのオープンハウス〈http://www.kodousu.net〉